

イ	雅十五〇三加〇十九
ロ	雅廿六〇七
ハ	太五〇十至二
ニ	雅五〇三
ホ	雅九〇公理一、路廿〇
ヘ	雅五〇五至四
ト	王五〇加至十二
チ	可一〇四至十一〇六
リ	リ何三三
ル	太五〇三、 雅四二〇八
ヲ	ヲ伯十四〇三至十四〇六
リ	雅十四〇六至十四〇九、路十
ヨ	雅五〇十七
ヨリ	雅五〇十七

新約全書使徒ヤコブの書

神および主イエスキリストの僕ヤコブ各處に散る十二の支派に  
 安を問ニわが兄弟よ若んぢら各様の試誘に遇バ之を喜ぶべき事とすべ  
 し蓋んぢららの受る信仰の試みの試みの試みハ爾曹をして忍耐を生せしむると知バ  
 なり四 さんぢらら全く且備りて缺る所なからん爲に忍耐をして全く勵かし  
 めよ 爾曹の中もし智慧足ざる者わらバ夫の答ることなく惜ことなくし  
 て衆人にする神に求めよ然バ予られん 然も疑ふことなく信じて之を求  
 むべし疑ふ者の風お撼ざれて翻へる涌浪の如し七 斯の如き人の主より何  
 物をも受ると想ふ勿れ八 斯の如き人の心にして其行ふ所の事すべて定  
 準なし九 卑き兄弟ハ其高せらるゝ事を喜樂とせよ十 富る者は其卑せらる  
 ゝ事を喜樂とせよ蓋草の花の如く逝べければ也十一 其日出て熱し草を枯  
 せバ其花おら其美しき容きゆ富る者も亦かくの如く其爲とて之を年にして  
 已まづんニ忍て試誘を受る者の福なり蓋こゝろみを経て善とせらるゝ

新約全書希伯來書終

五	五	九	一〇	一四	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五	一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇	一二一	一二二	一二三	一二四	一二五	一二六	一二七	一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二	一三三	一三四	一三五	一三六	一三七	一三八	一三九	一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四	一四五	一四六	一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二	一五三	一五四	一五五	一五六	一五七	一五八	一五九	一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五	一六六	一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七二	一七三	一七四	一七五	一七六	一七七	一七八	一七九	一八〇	一八一	一八二	一八三	一八四	一八五	一八六	一八七	一八八	一八九	一九〇	一九一	一九二	一九三	一九四	一九五	一九六	一九七	一九八	一九九	二〇〇
---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

時ハ生命ノ賜を受べければ也之ノ最ハ主己を愛する者に約束し給ひし所  
 のもの也主誘ふる者ハ神われを惡ハ誘ふと言ふ言なけれ神ハ惡ハ誘れず亦人  
 を惡ハ誘ひ給ひし人惡ハ誘ふる己の徳に引れて誘はるる也十五  
 六 己に罪をうみ罪すでに成て死を生すわが愛する兄弟より欺く勿れ  
 七 凡ノ善賜と全き賜ハみな上より諸の光明の父より降るなり父ハ變て  
 八 無才轉動て顯るる影も赤き者ありハの己の旨に循ひ眞道を以て  
 九 我憐を生り是我憐をして其造る所の物の中わて初に結べる果の如き者  
 十 ならしめん爲なり○十是故に我が愛する兄弟より人おのし聽こどもを速か  
 十一 し語るこどもを徐し怒こどもを徐すべし三人の怒ハ神の義を行ふ事を  
 十二 せざれば也三然バ諸の汚穢と多の邪惡をすて柔和を以て爾曹の心に雅  
 十三 たる所の靈魂を救得る道を受べし三なんちら道を行ふ者なるべし徒て  
 十四 れを聞のみおして自己を欺く者となる勿れ三それ道を聞のみおして之を  
 十五 行ひざる者ハ鏡に向て本来の面をみる人に似たり言かれ己を照し觀て去

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

一 ち直に其如何なる相貌なりしかを忘る 然バ自由なる全き律法を切々  
 二 〇に觀て離れざる者ハ是功を行ふ者にして聞て忘るる者に非ず斯人  
 三 六とこそ福あらん三爾曹のうち誰か若みづから神に事する者と思ひて其苦  
 四 難をつげず自ら其心を欺ハバ其事ることハ徒然なり主神なる父の前  
 五 潔して機なく事ることハ孤子と寡婦を其患難の中に眷顧せたり守て世  
 六 守らんに人ハ偏顧ること勿れニもし人金環をばめ美しき衣服を着て爾  
 七 曹の會堂に來り又貧き人汚たる衣服を着て來らんに三なんちら美しき衣  
 八 服を着たる人を顧みて爾之の榮位に坐れと曰また貧者に爾彼處に立とい  
 九 ひ或ハ我が足下に坐れと曰バ 爾曹ハ各人のうち區別を立また惡念を以  
 一〇 七人を分ものに非ずや 我が愛する兄弟より聽け神ハ斯世の貧者を選て信  
 一 仰に富せ己を愛する者に約束し給ひし所の國を嗣べき者とならしめ給ふ



三	ノ	附冊二九
四	リ	第一二二至四七十三
五	ウ	第一九〇至七六〇世
六	エ	第一九〇至七六〇世
七	カ	第一九〇至七六〇世
八	キ	第一九〇至七六〇世
九	ク	第一九〇至七六〇世
十	ケ	第一九〇至七六〇世
十一	コ	第一九〇至七六〇世
十二	サ	第一九〇至七六〇世
十三	シ	第一九〇至七六〇世

三 愆なくば是全人にして全體に轡を置得るなり 夫われら馬を己に馴ひせ  
 愈として其口に轡を置よき 其全體を馭すべし 舟も亦うの形の大く且  
 狂風に運ることも小舵を以て舵子の意の隨に之を運すなり 此の如く舌  
 も亦小ものにして誇ること大なり 視よ微火いかに大なる林を燃すを 舌  
 亦即ち火すなり 惡の世界なり 舌の百體の中に備りありて全體を汚し又  
 全世界を燃すなり 舌の火の地獄より燃出せよの各類の獸禽昆蟲海に在る  
 の皆制を受また既に人に制せられたり 然て人たれも舌を制し能はず乃  
 ち抑がたき惡にして死毒の充るもの也 我儕これを以て主なる父を祀安  
 た之をもて神の形に像りて造られたる人を詛ふ 祝と詛一の口より出わ  
 が兄弟よ此の如き事ハ有べきに非ず 泉の源ハ一穴より甘水と苦水を並  
 に出さん乎 わが兄弟よ無花果の樹橄欖の果を結び或ハ葡萄の樹無花果  
 の果を結ぶことを得んや 斯の如く泉の源鹹水と淡水を並に出すこと能ハ  
 ず 爾曹のうち智くして聰明ものハ誰なるや 柔和なる智慧を以て善行を

十四	カ	附冊三〇七至三三
十五	ク	第一九〇至七六〇世
十六	ケ	第一九〇至七六〇世
十七	コ	第一九〇至七六〇世
十八	サ	第一九〇至七六〇世
十九	シ	第一九〇至七六〇世
二十	タ	第一九〇至七六〇世
二十一	チ	第一九〇至七六〇世
二十二	リ	第一九〇至七六〇世
二十三	ニ	第一九〇至七六〇世
二十四	ハ	第一九〇至七六〇世
二十五	ヘ	第一九〇至七六〇世
二十六	ト	第一九〇至七六〇世
二十七	チ	第一九〇至七六〇世
二十八	リ	第一九〇至七六〇世
二十九	ニ	第一九〇至七六〇世
三十	ハ	第一九〇至七六〇世
三十一	ヘ	第一九〇至七六〇世
三十二	ト	第一九〇至七六〇世
三十三	チ	第一九〇至七六〇世
三十四	リ	第一九〇至七六〇世
三十五	ニ	第一九〇至七六〇世
三十六	ハ	第一九〇至七六〇世
三十七	ヘ	第一九〇至七六〇世
三十八	ト	第一九〇至七六〇世
三十九	チ	第一九〇至七六〇世
四十	リ	第一九〇至七六〇世
四十一	ニ	第一九〇至七六〇世
四十二	ハ	第一九〇至七六〇世
四十三	ヘ	第一九〇至七六〇世
四十四	ト	第一九〇至七六〇世
四十五	チ	第一九〇至七六〇世
四十六	リ	第一九〇至七六〇世
四十七	ニ	第一九〇至七六〇世
四十八	ハ	第一九〇至七六〇世
四十九	ヘ	第一九〇至七六〇世
五十	ト	第一九〇至七六〇世

者の平和を以て種に由て結ぶなり  
 爾曹の中の戦闘と争競ハ何より來しや 爾曹の百體の中に戦ふ所の  
 愆より來しに非ずや 爾曹貪れども得ず殺せどもとせし嫉ことを爲せり得て  
 能ハず 爾曹争競と戦闘せり 爾曹ハ求ざるに因て得ざる也 三人うち求  
 てなほ得ざるハ 爾曹愆のために費さんとして安んずるが故なり 姦淫を  
 行ふ男女ハ 爾曹世を友とするハ 神に敵するなるを知ざらんや 世の友と  
 らん事を欲ふ者ハ 神の敵なり 聖書に神の我儕の衷に住しめ給ふ 靈熱心  
 を以て我儕を愛ひて言るを 爾曹處きことよく 意ふや 神更に大なる恩恵を

子よ此に由ていふ神ハ驕傲者を拒ぎ謙卑者に恩を与ふ是故に爾曹神に服へ惡魔を拒げ然バかれ爾曹を逃去ん人なんぢら神に近ければ神なんぢらお近き給はん罪人よ爾曹の手を淨せよ二心の者よ爾曹の心を潔くせよ九かんなぢら苦め哀め哭なんぢらの笑を哀哭に易よ爾曹の歡樂を憂に易よ十自己を主の前に卑せよ然バ主なんぢらを高せん十一兄弟よ互に諍る勿れ兄弟を諍或ハ兄弟を諍する者ハ律法を諍する者なり爾よし律法を議せバ律法を行ふ者に非ず律法を議する者なり十二律法をたて人を議する者ハ惟一なり彼ハ救ふこと滅すことを爲得る也なんぢら誰なれば隣を議する乎三わをら今日明日某の邑にゆき彼處に一年とゞまり賣買して利を得んといふ者よ十四かんなぢら明日の事を知ず爾曹の生命ハ何ぞ暫く現れて遂に消る霧なり十五爾曹の言こそ易て如此いへ主よし許し給ハよ我れ活て或ハ此事あるハ彼事を行んよ十六然て今なんぢら驕りて諍ることを爲凡て此の如き誇ハ惡なり十七人善を行ふ事を知て之を行ハざるハ罪なり

七 日 露三〇廿四  
八 水四〇三十三一復節五〇  
九 六六九代下五〇二  
一〇 代下五〇二  
一 代下五〇二  
二 代下五〇二  
三 代下五〇二  
四 代下五〇二  
五 代下五〇二  
六 代下五〇二  
七 代下五〇二  
八 代下五〇二  
九 代下五〇二  
一〇 代下五〇二  
十一 代下五〇二  
十二 代下五〇二  
十三 代下五〇二  
十四 代下五〇二  
十五 代下五〇二  
十六 代下五〇二  
十七 代下五〇二

朽なんぢらの衣服ハ蠹ハ三爾曹の銀ハ鏽腐れ此鏽證を爲て爾曹を攻め凡て此の如き誇ハ惡なり十四かんなぢら明日の事を知ず爾曹の生命ハ何ぞ暫く現れて遂に消る霧なり十五爾曹の言こそ易て如此いへ主よし許し給ハよ我れ活て或ハ此事あるハ彼事を行んよ十六然て今なんぢら驕りて諍ることを爲凡て此の如き誇ハ惡なり十七人善を行ふ事を知て之を行ハざるハ罪なり  
既になんぢら義者を罪に定め且これを殺せり彼なんぢら  
の心を憐れしなり六  
を拒ざりき七兄弟よ忍て主の臨るを待べし視よ農夫地の貴き産を得る  
望みて前と後との雨を得まで久く忍て之を待り八爾曹も忍べ爾曹の心を  
堅せよ蓋主の臨り給ふこと近ければ也九兄弟よ爾曹互に怨ること勿れ惡く  
ハ罪に定められん視よ鞦するもの門の前に立り十兄弟よ爾曹主の名に託て  
語りし預言者を苦と忍との式とすべし十一われら恐ふ者ハ福なりと意ふ也  
なんぢら曾てヨブの忍を聞き主いかに彼に行給ひし乎一の結局を見よ即ち  
ち主ハ慈悲深く且矜恤ある者也十三兄弟よ一切誓ふ勿れ或ハ天あるハ地

一 露三〇廿四  
二 水四〇三十三一復節五〇  
三 代下五〇二  
四 代下五〇二  
五 代下五〇二  
六 代下五〇二  
七 代下五〇二  
八 代下五〇二  
九 代下五〇二  
一〇 代下五〇二  
十一 代下五〇二  
十二 代下五〇二  
十三 代下五〇二  
十四 代下五〇二  
十五 代下五〇二  
十六 代下五〇二  
十七 代下五〇二

1	水三〇二
2	聖三〇一
3	聖三〇二
4	聖三〇三
5	聖三〇四
6	聖三〇五
7	聖三〇六
8	聖三〇七
9	聖三〇八
10	聖三〇九
11	聖三一〇
12	聖三一〇
13	聖三一〇
14	聖三一〇
15	聖三一〇
16	聖三一〇
17	聖三一〇
18	聖三一〇
19	聖三一〇
20	聖三一〇

新約全書使徒ペテロ前書

一 水三〇二

二 ジアピニアに散て處れる者三即ち交なる福音に順はしめイエスキリストの血に灑れしめんとして其預じめ知らざる所に循ひ靈の聖潔をもて選び給ひし人々に贈る願くは爾曹に恩寵と平康の増んとを○三讀べきかな神われらに主イエスキリストの父かれ其大なる勢地を以て我儕を再び生我儕をしてイエスキリストの贖も給ひしことによりて活る望を得させ亦われらの爲に天に藏ある朽は汚れを棄へざる嗣業を得しめ給ふなり

三 亦われらの爲に天に藏ある朽は汚れを棄へざる嗣業を得しめ給ふなり

四 生我儕をしてイエスキリストの贖も給ひしことによりて活る望を得させ

五 亦われらの爲に天に藏ある朽は汚れを棄へざる嗣業を得しめ給ふなり

六 救を得たり六之に由て爾曹喜べり今暫く各様の艱難に遇て憂ざるを得ず

七 是雖も却て喜をなせり七爾曹の信仰を試みるるに壞る金の火に試みるるよりも實くして爾曹イエスキリストの贖れ給はんに時に稱讚と尊貴と榮光を得に至らん八爾曹イエスキリストを愛し今是とていへん

21	聖三十一
22	聖三十一
23	聖三十一
24	聖三十一
25	聖三十一
26	聖三十一
27	聖三十一
28	聖三十一
29	聖三十一
30	聖三十一
31	聖三十一
32	聖三十一
33	聖三十一
34	聖三十一
35	聖三十一
36	聖三十一
37	聖三十一
38	聖三十一
39	聖三十一
40	聖三十一
41	聖三十一
42	聖三十一
43	聖三十一
44	聖三十一
45	聖三十一
46	聖三十一
47	聖三十一
48	聖三十一
49	聖三十一
50	聖三十一

新約全書雅各書終

一 其迷る道より引反すの乃ち其靈魂を死より救ふことを得

二 或は眞の道より迷る者わらんに誰か之を引反さば三此人知べし罪人をた祈りければ天より雨ふりて地の産を涌出せり九わが兄弟よ爾曹の

三 祈るべし義者の鑑を祈禱の者なり七エリヤハ我儕と同情の人な

四 ば赦れん六なんぢら互に過を認らし且病を癒るることを得ん爲に五

五 信仰より出る祈禱の病者を救ふべし主之れを起さん若し罪を犯しし事有

六 長老等を招くべし彼等主の名に記て其人に膏を沃き之が爲に赦ん九

七 あるか有べし人讚美せよ十四爾曹のうち誰か病る者ある乎わらば教會の

八 罪に定られん十三爾曹のうち誰か昔む者ある乎わらば祈禱せよ誰か喜ぶ者

九 ある以て他物を指て誓ふ勿れ爾曹是を是とし否を否とすべし爾曹